

【司 会】 それでは、次の講演が最後となります。

木工業が盛んな飛騨を代表する家具メーカー、飛騨産業株式会社社長、岡田賛三様より御講演をいただきます。

飛騨産業は100年、200年と長い間、家族とともに生活する家具を世界に送り出しています。また、昨年の秋にはテレビ番組「カンブリア宮殿」で特集が放映されました。その中で、村上龍氏は飛騨産業の椅子を“立ち上がりたくない椅子”という名表現をしておられました。 それでは、岡田様、よろしくお願いします。

講演

「飛騨匠の技・ころろと現在」

飛騨産業株式会社代表取締役社長
岡 田 賛 三



ただいま御紹介をいただきました飛騨産業の岡田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

大変学術的なお話の中で、我々は実業の世界におりまして、ちょっと話の質が変わるかもわかりませんが、飛騨の匠の流れを引く我々は、今現代、どう物づくりをしているのかというようなことを考えながら、企業経営をさせていただいております。

飛騨産業という会社は、今年で創業98年になりまして、あと2年で100周年を迎えることになります。創業当時は、まだ飛騨高山には鉄道もない、本当に寒村であったわけですが、そんな中でなぜ家具をつくってきたかというようなことも考えてみたいと思っております。

そういった貧しい村、町であった高山で、私どもの創業者は西洋から渡ってきた曲げ木の技術というものを学び、そして自分たちが使ったこともない、見たこともない西洋家具をつくって、そしてそれを岐阜、名古屋、東京、大阪、全国へ販売をしていったということで、大変当時としては、いわゆるベンチャー企業だったのではないかなあと、そんなふうに思っております。

なぜ、そんな飛騨でつくった家具が全国に売れていったかというのは、今日お話のあったような木工技術が飛騨には伝統として残っていた、またそういう職人さんたちがたくさんいた、そういう背景があって、この会社ができ上がっていったのだろうというふうに思っています。

先日、カンブリア宮殿でも紹介されましたが、我々のつくった家具が「暮しの手帖」で紹介されたり、あるいは宮内庁の家具として利用されたり、また一昨年のサミットでは、

その会議のテーブルを私たちがつくらせていただいたとか、いろいろな仕事をさせていただいているのも、そういう木工技術を我々はいたできて、そしてそれを活用しながら、現在、家具づくりをやっているということでございます。

もともと飛騨の匠というのは、神社をつくったり、お寺をつくったり、宮殿をつくったり、本当に大きな物づくりから、また小さな一刀彫であつたりとか、物づくり、そういったことに大変たけていた人たちが多くいて、またその伝統が営々と引き継がれてきた、そんな地域だったのではないかと思います。

私どもの会社は、ここに示しているような形で、現在、漆垣内でこんな工場を営ませていただいております。

私はこの会社へ来まして、最初に手がけたのが節を生かすということでした。それまで、高級家具には節があつてはならん、杢目でなければならん、そういうようなお話、常識があつたわけですけども、それでは大変、木の無駄が多いというようなことから、何とかこの節を美として使えないかという

ことで、木の特徴を生かしたいというようなことから、こんな節を生かす家具を開発いたしました、「森のことば」というような大変素敵なネーミングもつけまして販売しましたところ、もちろんその節も喜ばれたわけですけども、我々のつくったつくり、あるいはデザインも大変そのときの時代にうまく適合したということで、当社にとってはびっくりするようなベストセラーになりまして、現在もこの家具は私どものトップシェアを示している、そんな家具づくりをさせていただきました。

K 飛騨産業 会社概要



設立	1920年(大正9年) 8月
資本金	1億円
従業員数	447名 (パート社員含む)
年間販売額	46億円 (2017年9月期)
事業内容	家具インテリア用品の製造・販売 自然エネルギーによる発電事業 林業・製材業

節を生かす



森のことば



やはり、我々は木を扱っている以上、木を大切に使い、木の特徴を生かしていくということも我々の一つの努めではないかなあと、そんな思いをしてつくらせていただきました。それが見事に市場に受け入れられて、私どもとしては大変、会社経営としても大きく貢献

をしてくれたわけでございます。

そんな中で、私、やはり飛騨の高山へ来て家具をつくっているのに、今までつくっている家具はほとんどが輸入材なのですね。アメリカからホワイトオーク、そしてヨーロッパからはヨーロッパアンバーチとか、そういう輸入材をほとんど九十数パーセントまで使っているという現状に、どうしても疑問を持ちまして、何とか国産材で使えないかということから、国産材といったら目の前に、戦後植えられた杉が山中を占めていると。そして、またスギ花粉、いろんなことで山が荒れたり、そして問題がいっぱい多発したりしていると。そんなその材料を何とか生かす道はないかということで、杉材を活用することを目指しました。

そこで、杉を調べておりましたら、杉の学名がクリプトメリア・ジャポニカというのですね。ラテン語で、日本の隠された財産というような学名だったのですね。クリプトメリアというのは隠されたもの、ジャポニカというのは日本の固有であるという。まず学名を見て、こんなに大切なものを我々は何か邪魔者のように、スギ花粉で困っている人たちは、杉なんてものがあるからみたいなふうに思っているわけですね。

そんなに邪魔にされている杉がどうして使われないのかということで研究いたしましたところ、杉は大変やわらかくて、傷がつきやすく、家具には不向きだということだったのです。

しかし、これだけ木目もきれいですし、また肌触りもいいし、大変価値のあるはずの杉を何とか使いたいということで、いろいろ研究をいたしまして、そして杉がやわらかいから傷がつきやすいのであれば、何とかそれをかたくする方法を考えようということで、いろいろ考えました。

樹脂を含浸させてかたくするというような方法もありますし、いろいろ表面にかたいコーティングをすることもありますが、それでは杉のよさが生かされない。何とか、杉のよさを生かしながら使える方法はないかというときに、圧縮技術というものに出会いました。

この圧縮技術というのは、当社が創業時から曲げ木という技術をずうっと続けてきて、ある意味、完成させている技術だったのですが、それを平面的に圧縮することによって固定することができるのではないかというようなことから、いろいろ研究をし、試行錯誤も大変してきたわけです。

それで、何とか杉材で、圧縮することによって、ナラとかブナと同じようなかたさの材をつくることに成功いたしました。

何とかすばらしい家具をつくりたいというようなことから、当時、岐阜県で、世界のデザイナーといわれている有名な方、エンツォ・マーリという方を招聘してくれました。

その方にデザインをお願いいたしまして、こ



んなすばらしい家具をつくることができ、ヨーロッパのミラノサローネなんかでも発表させていただき、全国的にも発表させていただきまして、大変評判を得ることになりました。

また、私たちはそういった中で、山を守ろうということだけではなくて、やはり自然の恵みを生かすということから、エネルギーも自然のものをできるだけ使っていきたいというようなことから、工場の屋根には太陽光発電を施工したり、あるいはまた工場の暖房であったり、乾燥であったり、いろんなところにいわゆる廃材であったり、あるいはペレットボイラーを使うというようなことで、できるだけ化石燃料を使わないような、そんなエネルギーを使う工場にしているところです。

自然の恵みを生かす

■年間発電量：42万kwh/年
(※1世帯3.600kwh/年で計算し、一般家庭120世帯分に相当)
■年間CO2削減量：140トン-CO2
(中部電力削減係数・0.341KG-CO2/kwhで算出)

ソーラーパネルの設置



ペレットボイラーの導入

環境に配慮する

ISO14001認証取得

■環境理念

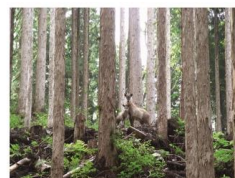
私たちは、自らの事業が豊かな自然の恵を受けていることを認識し、地球環境と企業活動の調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。

■環境スローガン

地球環境と企業活動の調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。

■環境方針

環境マネジメントシステムを構築し、あらゆる事業活動において社会や生態系に良い影響を及ぼすよう、的確な対応と行動を目指します。



私たちは、ISO14001の認定も取得いたしております。

環境を理念として、私たちは、自らの事業が豊かな自然の恵を受けていることを認識し、地球環境と企業活動の調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献しますということ。環境スローガンとしまして、地球環境と企業活動の調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。環境方針として、環境マネジメントシステムを構築し、あらゆる事業活動において、社会や生態系に良い影響を及ぼすよう、的確な対応と行動を目指しますということ、ちょっと大それた思いを会社の方針としております。

そして、これは昨年、開発した「kinoe」という家具なのですが、背のところを見ていただきますと、枝がそのまま使っているということですね。木は、いわゆる芯のところを使うのは、木材を活用する一般的なやり方なのですが、木を全部使わせていただきたいというようなことから、この枝を何とか活用できないかということで、枝を家具に採用いたしました。

また、枝というのは、やはり芯がありますから、割れやすいし、ゆがみやすいし、大変これも苦労しているわけですが、私たち

kinoe



の曲げ木技術を活用して、うまく固定させ、そして何とか家具として販売できることに成功いたしました。これもグッドデザイン賞には入賞いたしまして、世間からも注目をされております。

そして、私たちとしては、やはりこの飛騨の匠といわれる伝統をこれからもつないでいくために、あと2年で100周年を迎えるわけですが、次の100年に向かって、やはり職人の技術を残さねばならないというような思いから、職人学舎というものを立ち上げました。

これには、ここに写っております、これは横浜・川崎の秋山木工さんという大変日本で有名な木工所の社長です。自分はでっち小僧をやったからこそ、今これだけの技術が身についたのだと。職人はでっち教育をしなければ、本物の職人は育たないというようなことを非常に熱く語ってくれまして、私も彼の話を聞き、意気投合いたしました。

そして、高山にも彼を呼んで、高山で講演会など催してきたわけですが、そんな中で、秋山さんから、やっぱり本当の職人は飛騨からつくるべきだろうと。

飛騨産業がそれをやらずしてどうするのだというようなことを言われまして、それもそうだなあというような思いから、私はでっち経験もないし、職人でもないのに、一体どうしていいのか皆目見当もつかなかったわけですが、じゃあその秋山さんに、あなたが手伝ってくれるなら、高山の我々の会社で職人学校をまずチャレンジしてみようかというようなことで、準備を始めました。

しかし、秋山木工というのは大変厳しいでっち教育をやっておりまして、でっち4年、職人4年、それを過ぎるとその会社を首にするというようなことや、あるいはでっちの間は全員、女子も男子も丸坊主。それから、休みは盆と正月だけ。そして全員が共同生活をすると。そして、携帯も禁止、恋愛も禁止というような大変厳しい、そんなルールがありました。

秋山さんだから、そんな彼に憧れて来る、そういう生徒もいるのだろうけど、我々がいきなり始めて、そんな生徒が本当に来るのかなあと大変心配をしておりましたけれども、とにかくやってみようというのが私たちの会社の方向ですので、とにかく立ち上げようということで立ち上げました。そうしたら、やはり応募してくれる子がいたのですね。そんなことで、スタートすることができました。



これは去年の4月の職人入学式ですね。今日、この職人も、でっちも来ておりますけれども、前のほうに座っているのは、皆、頭を丸坊主にしておりますよね、女の子も。こんな形でスタートすることができました。

これは職人が学んでいる姿です。本当に当社の腕のいい職人がここの学長となって、そしてまた定年退職した腕のいい職人さんがここの先生として、また活躍してくれておりますので、彼らにとっては職人としての技を学ぶ場としては最高の場所ではないかなあ、なんて思っております。

これは共同生活の中で食事当番が食事を用意し、みんなで食事をしている風景です。

この住宅は寮といいますか、実は会社の近くに大きな農家がありまして、そこがたまたま空き家になっていて、それを私どもに使わせていただけるということで、大変立派な農家ですけども、それを活用させていただいております。土地は1,000坪ぐらいあって、畑もあるし、彼らはそこで畑もやり、そこでつくった作物をまたみんなで料理して食べるというようなことで、ここで生活している彼らは農業もできる、そして職人としての力もつく、いろんな意味で全人格的な教育ができていのではないかなあ、そんなふうに思っております。

これは去年の卒業式のときに、父兄の方にも来ていただいて、そして盛大に卒業をお祝いしたところであります。この卒業式で一番感動いたしますのは、卒業生が今まで一番お世話になった方のために家具をつくるというテーマになっております。それぞれが2年間頑張って、腕を磨いてきたその成果を、大抵お母さんに対してですけどね。お母さんに贈るというようなことで、ロッキングチェアであったり、あるいは作業台であったり、鏡台であ



ったりとか、お母さんが一番喜びそうな家具をつくって、そしてこの卒業式の日にお渡しするということで、御両親は本当に感動して、大変喜んでいただいて、我々もその感動のお裾分けをいただいたというようなことでありました。

この職人学舎の規則、ここに書いてありますように、まず先ほど言いましたように恋愛禁止、携帯禁止、時間厳守というようなこと。そして、ただここでは職人としての腕を磨くだけではなくて、よい職人はよい人格を持っていなきゃだめだと。一流の人間でなければ、一流の職人になれないというのが秋山さんの信条でした。それをそっくりいただいて、私どもも、その全人格的な教育というものを進めております。その基本ルールとしては、挨拶をするとか、朝食・夕食をとく、いろいろと規則があるわけですが、これを本当に彼らはしっかり守って生活をし、そして腕を磨いてくれております。

この中から、去年も技能五輪全国大会に出場いたしました、本当に残念だったのですが、金はちょっと逃しちゃいましたが、銀と銅を取らせていただきました。今までにここから出た子、あるいは飛騨産業自体にもそういった腕のいい職人を目指して入社してきてくれている者もおりますので、今までのこんな成果が出ております。

飛騨職人学舎規則	
◆下記の規則は絶対厳守の事、破った者は退学させます。	
・恋愛禁止 ・携帯禁止 ・時間厳守	
◆300冊を読め、実践すること。	
◆寮のルール	
・挨拶をすること。 ・朝食・夕食は全員一緒に食べること。 ・靴はそろえること。 ・迷惑をかけること。 ・感謝すること。 ・思いやりを持つこと。 ・お互いを認めあうこと。 ・身の回り、寮の周りをきれいにすること。 ・盗難・盗竊すること。 ・自分から動くこと。 ・言葉使いを正しくすること。 ・ドア、戸は閉けたら閉めること。 ・怪我をしないこと。 ・体調管理をすること。 ・毎週金曜日は全員で整理掃除をすること。	
◆1日のスケジュール	
5:10 起床 5:30 朝・昼掃除 (冬場一週間かき) 6:30 朝食 10:00 夕食 21:00 機械作業終了 22:00 作業終了 22:30 門限	
◆洗濯木曜日は指導者も食む夕飯。	
◆寮長を男女1名ずつまた金庫番を1名選任する。	
◆携帯を1台男子寮長に貸与する。	
◆お風呂は寮母さん(山下さん)に依頼し、支払いを学舎会計と生徒で分担する。	
◆2年間は奨学金を受け取ることができます。	

技能五輪全国大会

技能五輪全国大会は、青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会で、その目的は、次代を担う青年技能者に努力目標を与えるとともに、大会開催地域の若年者に優れた技能を身近にふれる機会を提供するなど、技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図ることにおかれています。



第55回技能五輪全国大会

銀賞 田立 達也
銅賞 向段 芽生

第54回技能五輪全国大会

銀賞 倉本 拓也

銅賞 田立 達也

第53回技能五輪全国大会

銅賞 瀧口 修也

敢闘賞 小笠原 章弥

敢闘賞 田立 達也

第52回技能五輪全国大会

銀賞 瀧口 修也

第51回技能五輪全国大会

銅賞 吉家 謙太

第50回技能五輪全国大会

銅賞 吉家 謙太

第48回技能五輪全国大会

金賞(建具) 吉家 謙太



ここで、きょうこの職人、でっちが5名来ておりますので、彼らを御紹介し、彼らの人となりといいますか、それをぜひ皆さんに御紹介したいと思いますので、職人、おいで。(拍手)

それでは、一人一人の自己紹介をさせます。そして、その後で職人30箇条というのがあるのですが、それを順番に発表させていただきますので、お聞きください。それでは、スタート。



【アライ】 自己紹介させていただきます。

アライタカヤ、二十歳、出身は岐阜県高山市で、共働きの両親と自動車関係の仕事で働く兄と私の4人家族です。

私がこの学舎に入校させていただいたきっかけは、高校時代、木工を学ばせていただいて、そこでさまざまな技術を身につけ、もっといろいろな家具をつくりたいと思ったため、ここに入校させていただきました。

今、2年目をもう終了に近づき、今は道具箱の制作をしています。今、全てを無垢でつくるため、木の性質というものを理解し、つくらなければいけません。こういった物づくりを続けていって、木の性質というものを理解していき、さまざまな家具をつくっていき、行く行くは飛騨の匠といわれるような、そんな職人を目指して精進していきます。

また、今年成人を迎えました。今まで育ててくださった両親に感謝の気持ちを込めて、今まで習ってきた技術を使い、両親に向けて家具をプレゼントしたいと思っております。精いっぱいやらさせていただきますので、よろしくお願いいたします。(拍手)

【カジ】 自己紹介させていただきます。

富山県高岡市出身のカジシオリ、24歳です。家族構成は、母、兄、私の3人家族で、飛騨職人学舎は2年目になります。

私は、高校、大学と製品デザインを学び、自分でデザインしたものをきちんと形にできる職人となるため、木工を基礎から学ばせていただけたという飛騨職人学舎への入校を決

意いたしました。

私のシオリという名前は、志を持って賢く生きると母が名づけてくれました。母は看護師で、平日は毎日、夜遅くまで私や家族のために働いてくれていて、そんな母にとっても感謝をしています。母は私を心配して、たまに連絡をくれたり、実家に帰ったときは自慢の手料理を振るって、料理をつくって出迎えてくれたりします。そんな母に、今年の最後の卒業制作では食器棚をつくり、恩返しをします。

将来は、自分の工房を持ち、思いやりのある家具をつくれる職人となるため、全力でやらせていただきます。志を持って精進しますので、よろしくお願いいたします。(拍手)

【サトムラ】 自己紹介させていただきます。

瀬戸物で有名な愛知県瀬戸市出身、23歳、サトムラトシキです。家族構成は、父、母、姉、私の4人家族です。

もともと私は機械工学の大学に所属していましたが、ふと家に帰ったときに、亡くなった祖母が使っていた桐箆笥や、お古でいただいた自分の勉強机、そういったものが長く使われ続けており、またその使われ続けていたことにより、味が出ていることに気づき、私もこのような家具をつくりたいと思い、こちらの飛騨職人学舎に入校させていただきました。

今回はこのような講演会に参加させていただき、ありがとうございました。私もこの講義で学んだように、目利きのできる、また未来に技術を伝承できるような、そんな職人になりたいと思いました。

現在、私たち1年生は修了課題としてキャビネットをつくらせていただいています。このキャビネットは、私たち1年生がこれまでに学んできた仕口加工や、加工方法、知識などが目いっぱい盛り込まれた、そんな課題となっております。先生方や先輩方に教えていただいたことを最大限に生かし、最高の作品をつくり、無事修了していきたいと思います。

将来は、各御家庭の家宝と言ってもらえるような、そんな家具をつくれる職人になりたいと思います。御縁がございましたときは、よろしくお願いいたします。(拍手)

【ヤマタカ】 自己紹介させていただきます。

ヤマタカハルキ、22歳、大阪府の聖徳太子のお墓のある町、太子町出身です。家族構成は、父、母、兄、姉、私の5人家族です。

以前は、家具のデザインを学べる専門学校にいました。そこでは、自分でデザインしたものを実際につくるという授業があり、そのときに家具のデザインをするよりも自分でつくったほうがいい、そういう仕事にかかわりたいと思いました。そんなときに飛騨職人学舎を見つけ、技術だけでなく、人間性も磨けるというところにも魅力を感じ、入校を決意しました。

入校して、もうすぐ1年がたちます。当初と比べれば、道具の整備や使い方、木の性質

などをわかってきて、自分でも成長したなど実感しています。しかし、職人としてのスキルはまだまだ足りていないので、先輩や先生方の技を見て、盗んで、飛騨の匠と呼ばれるようになれるよう全力で取り組んでいます。

将来は自分の工房を持ち、お客様に感動を与えられる家具をつくれる職人、そして今も支えてくれている家族に恩返しできる、そんな職人になりますので、よろしくお願いします。(拍手)

【カワナベ】 自己紹介させていただきます。

サボテンを給食で食べる愛知県春日井市出身、カワナベミズキ、19歳です。家族構成は、父、母、兄、私、弟の5人家族です。

私はもともと高校で木工を学んでいました。高校では機械加工中心でしたが、授業で少し習った手加工の道具に興味を持ち、手加工を学べると知り、飛騨職人学舎に入校を決意しました。

入校してから、ふだん会えない家族や友達に手紙を書くようになりました。今までは携帯で余り考えずにメッセージを送信していましたが、相手の気持ちを考え、どうしたら自分の気持ちが伝わるかなど、文章をたくさん考え、気持ちを伝えることの大切さを学びました。また、手紙が届くと、相手の人の字やその人の文章の癖などから、相手の気持ちを考えたり、自分のために書いてくれたのだなという感謝の気持ちを持ったりできるようになりました。

本日はすばらしい講義を聞かせていただいてありがとうございました。飛鳥時代などから続く飛騨の匠がつくられたものが今もまだ残っていることに驚きました。私も、長く愛着を持って使っていただけるようなものをつくり、手紙だけでなく、家族や周りの人に恩返しをしていきます。精一杯やらさせていただきますので、よろしくお願いします。(拍手)

【岡 田】 ありがとう。それじゃあ、どうぞ。

【アライ】 それでは、職人心得30箇条を唱和させていただきます。

挨拶のできた人から現場に行かせてもらえます。明るく元気よく挨拶することで、気持ちよくコミュニケーションを広げることができます。

連絡・報告・相談のできる人から現場に行かせてもらえます。情報を正確に共有することで、スムーズに連携をとることができます。

明るい人から現場に行かせてもらえます。大きな声ではきはきと話すことで、周りの雰囲気がよくなります。

周りをイライラさせない人から現場に行かせてもらえます。自分のことだけでなく、周りをよく見て行動することが大切です。

人の言う事を正確に聞ける人から現場に行かせてもらえます。言われたことを理解して

行動することが大切です。

愛想よくできる人から現場に行かせてもらえます。いつも笑顔でいることで、周りも笑顔になります。

責任を持てる人から現場に行かせてもらえます。緊張感を持って、本気で取り組むことで、よい家具をつくることができ、お客様に喜んでもらえます。

返事をきっちりできる人から現場に行かせてもらえます。返事をする事で相手に自分の意思を伝えることができます。

思いやりのある人から現場に行かせてもらえます。相手の気持ちを考えることが大切です。

おせっかいな人から現場に行かせてもらえます。たとえ嫌がられても、相手のことを思って行動することが大切です。

しつこい人から現場に行かせてもらえます。何事も諦めず、しつこく取り組むことが大切です。

時間を気にできる人から現場に行かせてもらえます。時間にけじめをつけることで作業に集中できます。

道具の整備がいつもされている人から現場に行かせてもらえます。道具は一生の相棒です。相棒も整備しておくことで、いつでも仕事に取りかかれます。

掃除、片付けの上手な人から現場に行かせてもらえます。周りをきれいにしておくことで、スムーズに作業を進めることができます。

今の自分の立場が明確な人から現場に行かせてもらえます。自分でできることを見つけ、行動に移すことが大切です。

前向きに事を考えられる人から現場に行かせてもらえます。前向きに考えることで、失敗しても次の目標が見えてきます。

感謝のできる人から現場に行かせてもらえます。感謝のできる人は、常に人のために行動できるようになります。

身だしなみのできている人から現場に行かせてもらえます。身だしなみを整えることで安全に作業ができます。また、いつも見られているという意識を持つことが大切です。

お手伝いのできる人から現場に行かせてもらえます。相手の行動を予測して、お手伝いすることが大切です。

道具を上手に使える人から現場に行かせてもらえます。臨機応変に道具を使うことで、効率よく作業を進めることができます。

自己紹介のできる人から現場に行かせてもらえます。自分のことを簡潔に伝えることで、相手に覚えてもらえます。

自慢のできる人から現場に行かせてもらえます。自信を持って、作品をわかりやすく説明することで、相手にアピールできます。

意見が言える人から現場に行かせてもらえます。意見を出し合うことで、考え方の幅が広がり、よりよいものをつくることができます。

お手紙をこまめに出せる人から現場に行かせてもらえます。心を込めて書くことで、より相手に気持ちを伝えることができます。

トイレ掃除ができる人から現場に行かせてもらえます。毎日使うところを率先してきれいにすることで、気持ちよく過ごすことができます。

電話を上手にかけられる人から現場に行かせてもらえます。相手の表情が見えないからこそ、わかりやすく伝えることが大切です。

食べるのが早い人から現場に行かせてもらえます。食事の段取りをよくすることは作業の段取りにもつながります。

お金を大事に使える人から現場に行かせてもらえます。無駄遣いをせず、感謝しながら使うことが大切です。

そろばんのできる人から現場に行かせてもらえます。正確に計算することで、材料と時間の無駄を省くことができます。

レポートがわかりやすい人から現場に行かせてもらえます。自分の復習と見た人の勉強になります。以上です。(拍手)

【岡 田】 ありがとう。

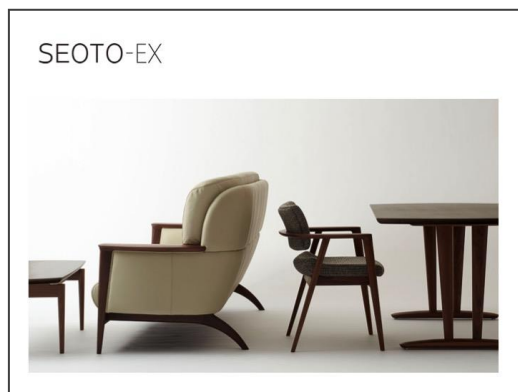
皆さん、今、彼らの表情と、そしてまた言葉を聞いていただいて、何か感じるがあったのではないかなと思います。本当に職人の道というのは、ただ腕を磨くだけではなくて、この30箇条にあるようなことをしっかりやっていくことが大切なのだとすることを彼らは毎日これを唱えて、そして仕事に勉強に取り組んでくれています。こんな姿を見ると、私も若いころ、こんな教育を受ければ、もうちょっとまじな人間になれたのではないかなあと思うようなことばかりでありますけれども、彼らの将来に本当に期待したいと思います。

彼らが言うておりましたように、この職人学舎は一応、卒業したら、職人として2年間やったら、自分が好きなところへ行っていいたいというふうにしております。本当は会社へ残って仕事をしてほしいのですが、ちょっと腹太いところを見せて、彼らにはそんなことを言うておりますけれども、将来は、しかし彼らとまた何か手をつなげることもあるだろうし、そういった本物の職人が全国に広がること、これもやはり我々飛騨の匠の努めかなあと、そんな思いをしてやらせていただいております。

最後、時間になりました。先ほど紹介いたしましたように、カンブリア宮殿でも彼らが紹介されました。私どもにとっても大変いい内容で放映をしていただき、本当にありがたかったなあと、そんなふうに思っております。村上龍さんが座って、なかなか立ち上がらないので、どうしたのですかと小池栄子さんが聞いたら、「いやあ、座り心地がいいのはも



ちろんだけど、立ち上がりたくないんだよね」というようなことを言われまして、それはすばらしいキャッチコピーだなあということで、いただきたいというような話をいたしました。そのときに、彼らが座ってくれたのが「CRESCENT」というこの椅子と、それから「SEOTO-EX」という椅子でございます。



当社はこれだけでなく、どの椅子も大変座り心地がいいので、またもしお試しになりたい場合は、ショールームへでもおいでいただけたらと思っております。

ちょうど時間となりました。大変、御清聴ありがとうございました。(拍手)



【司 会】 岡田様、御講演ありがとうございました。また、飛騨職人学舎の皆さん、力強いメッセージをありがとうございました。

以上をもちまして、講演会「デジタルアーカイブin高山～飛騨高山匠の技とところ～」、全て終了させていただきます。